

2024年1月24日(水)第四水曜祈祷会

マタイの福音書10章34～42節

『自分の十字架を負って』

【序】 * イエスさまは十二弟子を派遣する際、宣教に伴う困難を告げられた。

- ① 胴巻に金貨も銀貨も銅貨も入れて行くな。神だけを信頼して、捨て身で行きなさい。
- ② 蛇のように賢く、鳩のように素直でなりなさい。行く手には様々な危険や迫害がある。
- ③ 弟子は師以上の者ではない。人を恐れず神を恐れよ。神は人前で主を認める者を認められる。

【観察と黙想】

1. 「主を第一とする」(34～37節) * イエスさまはご自身の来臨目的を明らかにされる。

- ① イエスさまなぜ「わたしは、平和ではなく剣をもたらすために来た」と言われたのですか。
→
- ② イエスさまはなぜ「家の者たちがその人の敵となるのです」と言われたのですか。
→
- ③ イエスさまはなぜ「わたしよりも…愛する者は…ふさわしい者ではない」と言われたのですか。
→

2. 「自分の十字架を負って」(38～39節) * 十字架刑は人類が考え出した最も残酷な処刑法。

- ① 当時のユダヤ社会において「十字架を負う」とは、どういうことですか。
→
- ② イエスさまはどういう意味で「自分の十字架を負って」と言われたのですか。
→
- ③ イエスさまはなぜ「わたしのために自分のいのちを失う者は、それを得る」と言われたのですか。
→

3. 「主を受け入れる」(40～42節) * 弟子たちの宣教を受ける人々に対する教え。

- ① イエスさまは弟子たちを受け入れることは、どういうことだと言われました。
→
- ② 41節でくり返されている言葉はなんですか。
→
- ③ イエスさまはなぜ「小さい者たちの一人に一杯の水を…報いを失わない」と言われたのですか。
→

まとめ:

- ① あなたは主との個人的関係よりも、優先するものがありますか。
- ② あなたにとって「自分の十字架を負う」とは、どういうことですか。
- ③ イエスさまが言われた「わたしの弟子」とは、だれのことを指していますか。